

## ○エネマネハウス2014評価項目・評価基準

	評価項目	評価基準	備考	採点方法	配点	合計		
I 審査員による評価	A 提案内容の有望度に対する評価	A-1. コンセプト・アイデア	・“①エネルギー”、“②ライフ”、“③アジア”という3つのテーマ設定に対して、提案住宅のコンセプト、アイデアが明確に示されているか。また、その内容は妥当か。 ・コンセプト、アイデアに独創性・新規性、新たな付加価値の創造が見られるか。		◆A～Dの4段階評価 A: 特に優れている(×1.0) B: 概ね優れている(×0.7) C: 評価できる点もある(×0.4) D: 抜本的な改善が必要(×0.1) ※A～Dのバランスに配慮いただく	30		
		A-2. 技術	・提案されている技術が、コンセプト、アイデアと整合しているか。 ・提案されている技術に独創性・新規性が見られるか。 ※ここでいう技術には、躯体・設備機器だけでなく、建築計画や施工性等も含む。また、“エネルギー”の観点だけでなく、健康・快適等といった“ライフ”や、“アジア”地域の気候への適合という観点も対象とする。			20		
		A-3. 実行力	・事業の目的や提案内容に対し、業務を遂行する上で適正な実施体制が構築できているか。 ・コンソーシアム内での役割分担が明確に示されているか。			10		
		A-4. 省エネルギー効果	・同規模程度の標準的な住宅に比して、7～8割程度の省エネルギー効果が見込まれるか。 ・省エネルギー効果の計算方法や前提条件が明確に示されているか。また、その内容は妥当か。			10		
		A-5. 教育・啓発効果	・事業の実施により、学生の教育や産学連携の促進等の効果が見込まれるか。 ・事業の実施により、ユーザー(一般消費者)の省エネ意識の向上が見込まれるか。			10		
		A-6. 将来的な普及・展開	・事業の実施により、国際標準等への展開が見込まれるか。 ・2030年頃を念頭に、提案されている住宅や技術を実用化できる見込みがあるか(事業性・商用性)。 ・市場への浸透性という観点から、ユーザー(一般消費者)にとって魅力的な商品となり得るか(商品力)。また、アジア新興国等への展開が見込まれるか。			20		
	B 提案内容の実現度・完成度に対する評価	B-1. コンセプト・アイデア	・“①エネルギー”、“②ライフ”、“③アジア”という3つのテーマ設定に基づく提案住宅のコンセプト、アイデアが、実際の住宅において具現化されているか。 ※夏季を含む年間を通しての気候やアジア地域の気候等への対応も含む。		◆A～Dの4段階評価 A: 特に優れている(×1.0) B: 概ね優れている(×0.7) C: 評価できる点もある(×0.4) D: 抜本的な改善が必要(×0.1) ※A～Dのバランスに配慮いただく	30		
		B-2. 技術	・提案されている技術が、コンセプト・アイデアと整合しつつ、実際の住宅において具現化されているか。 ※ここでいう技術には、躯体・設備機器だけでなく、建築計画や施工性等も含む。また、“エネルギー”の観点だけでなく、健康・快適等といった“ライフ”や、“アジア”地域の気候への適合という観点も対象とする。			20		
		B-3. 実行力	・事業の目的や提案内容に対し、業務を遂行する上で適正な実施体制が実際に構築され、的確な役割分担がなされていたか。 ・設計、施工の完成度は優れているか。			10		
		B-4. 省エネルギー効果	・同規模程度の標準的な住宅に比して、7～8割程度の省エネルギー効果が実現されているか。 ・夏季を含め、年間を通して優れた省エネルギー設計が具現化されているか。			10		
		B-5. 教育・啓発効果	・事業の実施において、学生の教育や産学連携の促進等のための工夫が見られたか。また、それらの効果が実現されたか。 ・事業の取組について積極的に情報発信を行い、ユーザー(一般消費者)の省エネ意識の向上に貢献できたか。			10		
		B-6. 将来的な普及・展開	・完成した住宅の評価として、2030年頃を念頭に、提案されている住宅や技術を実用化できる見込みがあるか(事業性・商用性)。 ・完成した住宅の評価として、市場への浸透性という観点から、ユーザー(一般消費者)にとって魅力的な商品となり得るか(商品力)。また、アジア新興国等への展開が見込まれるか。			20		
II 測定結果による評価	C エネルギー	C-1. エネルギー消費量	・暖冷房(調湿含む)、換気、給湯のエネルギー消費量(電力、ガス)を測定(人体負荷として、2人分の発熱体を設置、給湯負荷として、1日200Lのお湯(平均43℃以上)を排出)	・I. 審査員による評価の参考情報として、結果を審査員に提示	◆暖冷房、換気のエネルギー消費量は当該住宅の延床面積で除し、給湯のエネルギー消費量は全住宅の平均延床面積で除す ◆エネルギー消費量が最も少ないチームを満点とし、当該チームを基準として得点率を設定	30		
		C-2. 発電量	・太陽光発電、燃料電池等による発電量を測定			◆発電量が最も多いチームを満点とし、当該チームを基準として得点率を設定	10	
		C-3. 日負荷率	・暖冷房(調湿含む)、換気、給湯の電力消費量を対象とし、1日の最大消費電力と平均消費電力を測定し、日負荷率を算出			◆日負荷率の平均値が最も大きいチームを満点とし、当該チームを基準として得点率を設定	10	
	D 快適性・健康性	D-1. 温熱環境(温度)	・リビング、寝室、浴室・脱衣スペース・トイレの3部屋のグローブ温度を測定(人体負荷として、2人分の発熱体を設置)		◆前3日間の平均外気温より算出する基準温度と平均室温との差分により得点率を設定	10		
		D-2. 温熱環境(湿度)	・リビング、寝室の2部屋の湿度を測定(人体負荷として、2人分の発熱体を設置)		◆平均湿度により得点率を設定	10		
		D-3. 空気環境(CO2濃度)	・リビング、寝室の2部屋のCO2濃度を測定(人体負荷として、2人分のCO2発生器を設置)		◆平均CO2濃度により得点率を設定	10		
		D-4. 光環境(照度)	・リビングの全天空日射量及び室内に入射する散乱日射量(放射照度)を測定		◆全天空日射量に対する室内に入射する散乱日射量の割合の平均値により得点率を設定	10		
		D-5. 音環境(音圧レベル)	・リビング、寝室の2部屋を対象に、室内と屋外の音圧レベル差を測定(外部騒音として、騒音発生装置を設置)		◆内外音圧レベル差の平均値により得点率を設定	10		
	III 来場者アンケートによる評価		・来場者が「住みたい、または購入したい」と思う住宅一軒に投票		・タブレット端末を会場出口に複数設置し、退場時に投票したいチームのボタンを押す ・I. 審査員による評価の参考情報として、結果を審査員に提示	(点数はつけない) ※投票数1位の事業者を「People's Choice Award(仮称)」として表彰	-	-